

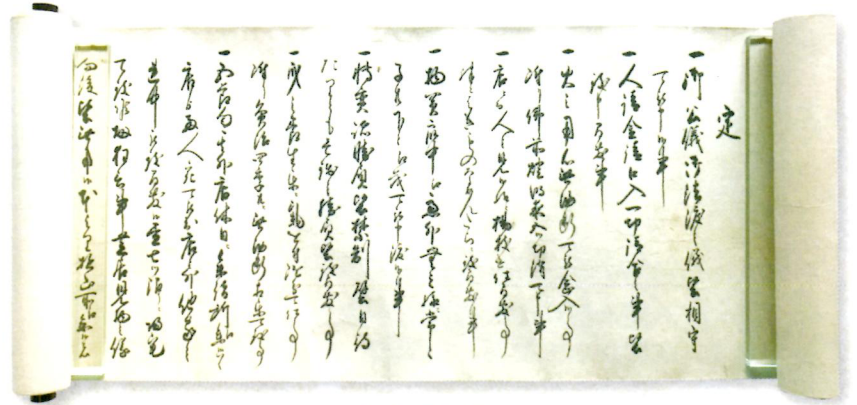
小津清左衛門家は、三井家・長谷川家・長井家等とともにいち早く江戸に店を構え、財を成した松阪屈指の豪商です。現在、松阪市本町で「松阪商人の館」として一般公開されている建物が小津家の旧宅です。

創業の祖である3代目長弘が、承応2年（1653）に江戸大伝馬町に紙店（小津屋）を開きました。その後、隣地に木綿店（伊勢屋）を江戸本町にも紙店（大橋屋）を開き、江戸一番の紙問屋となります。

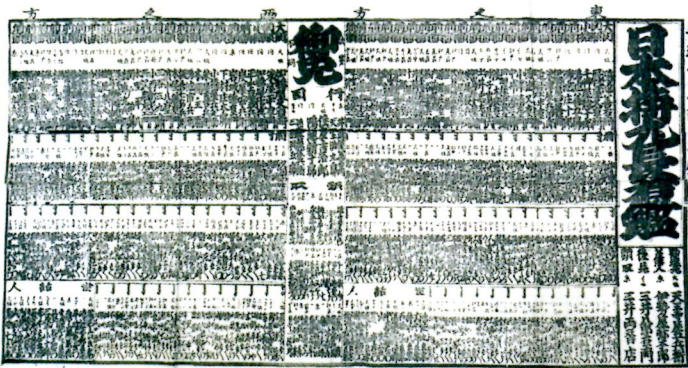
江戸時代以降、明治維新、金融恐慌、第二次世界大戦などの激動の時代を経営の近代化を図るなど堅実な経営手腕で乗り越え、今もってなお、創業の地（現 東京日本橋本町）で脈々と紙店を営んでいます。本年度江戸店創業365年を迎えますが、今回その長きにわたる松阪商人小津家の歴史を残された資料により展観します。



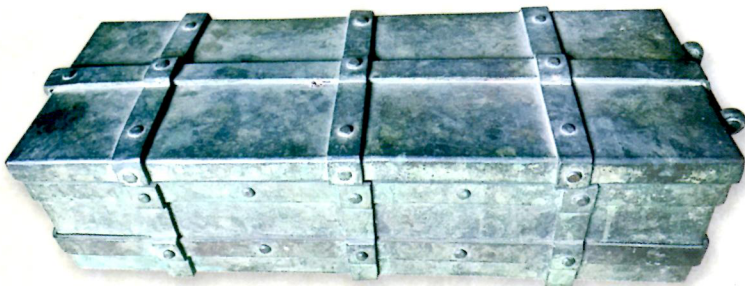
のれん



本店抜書



日本持丸長者鑑



千両箱（青銅製）



小津銀行看板



荷札